

「かっぽれ」との出会い

近松 圭子



■近松 圭子(プロフィール)
1936年東京生れ。
平成元年から絵手紙を始め、平塚郵便局の絵手紙の会の会長を12年、オール関東絵手紙協会の事務局を4年間担当し、2001年に辞め、現在は趣味として絵手紙、アクリル画を楽しんでいます。浅間町在住。

江戸芸かっぽれ踊りとは

江戸の末期、願人坊主が豊作を願い大阪住吉大社で踊り始め200年の伝統芸です。今では浅草を中心に座敷踊り、又大道芸としてたくさんの人達に楽しんでいます。

『かっぽれ かっぽれ 甘茶でかっぽれ 塩茶でかっぽれ』から始まったかっぽれ踊りですが、現在は紀伊国屋文左衛門踊りとして知られている『沖の暗いのに白帆が見える あれは紀ノ国みかん舟』で始まり、合いの手が色々入り、三番までありますが4分ほどの踊りになっています。

.....

私たちが「江戸芸かっぽれ」を始めたのは、絵手紙国際交流の旅にオーストラリアのシドニーとオーストラリアで唯一の日本人戦没者の墓があるカウラ市訪問の旅から始まりました。

2000年6月オール関東絵手紙協会（現在は地球・絵手紙ネット協会）のメンバー30人で、絵手紙展と絵手紙の指導に行きました。事前検討の際、国際交流の場で、日本文化の紹介に「かっぽれ」を踊る事が決まり、かっぽれ踊りとは無縁の会長夫妻を含む10人が、江戸芸かっぽれ踊り千寿栄会の柴田栄子先生の猛特訓を受けましたが、見ると簡単なようですが伝統芸ということで、

- 割り足で立つ
- 足の裏を見せずにそのまま片足を上げる
- 左手をピーンと伸ばして五本の指を開いて立てる
- 手のひらを天井に向ける
- 五本の指を開いて交差させる（六法の手）

等々難しく短期間ではとても無理でした。結局シドニーに行くまでに完璧に踊れた人は誰もいませんでした。

シドニーでは、絵手紙展と絵手紙体験指導のみでしたが、シドニーから400km離れた所にあるカウラ市は大変親日的な地域で日本館、日本庭園もありました。市長さんを始め地元の方達との交流パーティーの後、「かっぽれ踊り」を披露致しました。



男物の浴衣に帯をきりりとしめ、裾をはしより白足袋と赤いステテコ、赤のたすきがけ、豆しばりのねじりはちまき、目尻に赤い紅をつけたら、もう格好は江戸時代の芸人の粋な姿になり、三味線、太鼓、歌に合わせ、『かっぽれ、かっぽれ、ヨイトコラサー』の掛け声と笑顔、会場の人達の手拍子で踊りました。

アンコールの時は、カウラ市の皆さんも一緒に踊り、国際交流を十分果たす事ができました。

シドニーから帰って数ヶ月後、せっかく習い始めたのだからこのまま終わりにするのも勿体ないので続けてみようということになり、柴田先生（綾瀬市在住）のご指導で、「江戸芸かっぽれ踊り 千寿栄会 平塚道場」として2000年10月に平塚市中央公民館で発足し、毎月第四水曜日の午後1時から3時までお稽古をしています。



あれから4年、まだまだ未熟な会ですが「江戸芸かっぽれ」の他「深川」、「かっぽれ豊年じゃ」、「ソーランかっぽれ」等、年に一曲ぐらいのペースでレパートリーも増やし、柴田先生門下生一同が年一回集うお舞い初めの会に参加し、仲間との交流を深め、2001年から舞台用の衣裳を揃えちゅうおうFESTA芸能発表会の舞台に立ち、大勢の皆様に見ていただいております。又、馬入神明神社の祭礼にも毎年踊らせていただいております。



私は踊りは最も苦手なものでしたが、続けることに依って、踊れるようになり、楽しくなりました。そして健康の維持、仲間との交流、落語家さんや歌舞伎役者さんのかっぽれ踊りも見に行ったりと、今迄知らなかった世界を見ることが出来ました。絵手紙とは関係なく、かっぽれを習いたい人は誰でも入会できます。大勢の方に習っていただき、かっぽれ踊りが平塚の地に普及し発展していくことを願っております。

問い合わせ連絡先 近松 0463-32-6745